

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300773
法人名	宗教法人 光徳寺
事業所名	グループホーム 華蓮
訪問調査日	平成21年7月30日
評価確定日	平成21年9月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300773
法人名	宗教法人 光徳寺
事業所名	グループホーム 華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456-7 (電話) 0994-42-7223

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年7月30日	評価確定日	平成21年9月30日

【情報提供票より】(21年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 6 人、非常勤 4 人、常勤換算 7,95 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円		その他の経費(月額)	水道光熱費1日300円
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800	円

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数		9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1		3	名	要介護2	3	名
要介護3		3	名	要介護4		名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	88,7 歳	最低	85 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科・高須歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市郊外の静かな住宅地に立地しているこのグループホームは、周囲の住宅に違和感なく溶け込んでいる温かい雰囲気のあるホームである。玄関を開けると2匹の犬たちが迎えてくれる。それぞれの犬には役割があり、ホームの良きスタッフとなっている。

利用者から「ありがとう」を言ってもらえるようなケアを心がけている。ホーム全員で出かける一日旅行と一泊旅行は、自分の足で歩けなければとの思いでリハビリに励んだり、次はどこに行こうかと楽しみにしたりと利用者の生きがいや自信にもつながっている。利用者、職員ともに表情が明るく元気で、ホームに活気がある。また、地域との関わりも密でホームを地域の子どもの「立ち寄り場」として開放しており、休日など子どもたちが気軽に立ち寄ってくれ、子どもたちを通して地域への啓発にもつながっている。今後は更に地域のニーズに応え、地域と密着した生活の提供が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題はない。これまでに提出された改善課題については職員全員で話し合い、改善すべき点は改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者、職員は自己評価及び外部評価を振り返りの機会ととらえ、日々のケアのマンネリ化防止と改善課題を見つけ出し、評価を活かして改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	町内会長、地域住民代表、家族代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。介護度などに関する質問などがあり、運営推進会議を家族にも理解してもらい、いい機会とし、運営推進会議の中で介護教室を開催し、家族にも出席してもらった。会議で出された意見は話し合い、サービス向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	重要事項説明書に事業所内窓口と行政窓口、第三者委員を明記している。面会時などにできるだけ聞き出すように努めている。個々のケアに関しての家族からの要望や、家族の面会の負担を考慮した話し合いなど、家族の意見、要望を運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会、町内会にも加入しており、地域の協力が積極的である。ホームを地域の子どもの立ち寄り場として開放しており、子どもたちが気軽に遊びにきてくれ、利用者とも自然な交流ができる。また、小学校からの運動会への招待もあり、利用者が参加できるようなプログラムを設けてあり、利用者の楽しみの一つになっている。小学生の体験学習や中学生の職場体験の受け入れもしており、地域の子どもの交流も盛んである。また、子どもたちを通じ、ホームに見学にくる保護者もあり、ホームの啓発にもなっている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの理念を掲げ、その中に「グループホームを地域に開かれたものにする」とともに、利用者が地域社会の一員として生活出来ることを支援します」とあり、地域との交流の重要性をうたっている。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度、新規の職員も多く、理念については実践に向けて更に理解を深め充実させるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、町内会にも加入しており、地域の協力が積極的である。ホームを地域の子どもの立ち寄り場として開放しており、子どもたちが気軽に遊びにきてくれ、利用者とも自然な交流ができる。また、小学校からの運動会への招待もあり、利用者が参加できるようなプログラムを設けてあり、利用者の楽しみの一つになっている。小学生の体験学習や中学生の職場体験の受け入れもしており、地域の子どもたちとの交流も盛んである。また、子どもたちを通し、ホームに見学にくる保護者もあり、ホームの啓発にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を振り返りの機会ととらえ、日々のケアのマンネリ化防止と改善課題を見つけ出し、評価を活かして改善に取り組んでいる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、地域住民代表、家族代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。介護度などに関する質問などがあり、運営推進会議を家族にも理解してもらいいい機会とし、運営推進会議の中で介護教室を家族にも案内を出して開催するなど、出された意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについて、情報交換や意見交換など行い、機会をとらえ積極的に連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が月に1回以上の面会があり、面会時に暮らしぶりや健康状態を報告している。面会にこれない家族に対しては管理者より手紙で報告している。職員異動は面会時に紹介とホーム入り口にも職員紹介を掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所内窓口と行政窓口、第三者委員を明記している。面会時などにできるだけ聞き出すように努めている。個々のケアに関しての家族からの要望や、家族の面会の負担を考慮した話し合いなど、家族の意見、要望を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さは理解しており、離職があった際は新規の職員との引き継ぎに十分な期間をとっており、新規採用者には夜勤帯に管理者も入り、慣れるまで利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろいろな研修に参加することでより自信を持って業務にあたれるように支援している。外部研修は費用を助成し、全職員が段階に応じた研修が受講できるように支援している。ミーティング時の内部研修は管理者が看護師の立場で医療面についての研修を行ったり、それぞれが得意とする分野で力を発揮できるように、年間行事とレクリエーションは職員が計画をたてるなどしている。また、新入職の職員は研修計画をたてて、介護普及センターの研修を受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、全職員が交代で参加できるように配慮している。他のグループホームを見学することで自分たちの取り組みを見直すいい機会にもなるので、相互訪問など行い、ときには他のグループホームの研修にも参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人、家族に見学に来てもらい、利用者とも話をする機会を設け、本人に納得してもらってから入居してもらうようにしている。また、生活歴、背景を知りうへでも管理者、計画作成担当者が自宅を訪問している。入居してからは今までの生活のペースを守りながら徐々になじめるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、お互いに助け合って生活するという関係作りに努め、料理について教えてもらったり、生活面でのアドバイスをもらったりしながら支え合う関係を築いている。また、一泊旅行などを通して利用者と職員が喜びを分かちあっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で利用者に寄り添い、コミュニケーションをとり、思いや意向の把握に努めている。生活歴の把握と家族からの情報、本人の生活スタイルの把握などで本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に聞いた家族の意見、職員の意見、受診時に聞いた主治医からの情報などを基に、個別の介護計画を作成している。地域での関わりを絶つことがないように利用者がホームで楽しく過ごしたいとの希望に対し、地域小学生との交流を取り入れ、地域密着型としての介護計画も明記されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は特に大きな変化がない場合でも3ヵ月で見直しを行っている。個人経過記録に毎月の経過(モニタリング)を記録し、評価をし、担当者会議を行って次の計画につなげている。また、状態変化時にはその都度計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、外出、外泊、理美容院の送迎など家族の状況、要望に応じて事業所の多機能性を活かして柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していたかかりつけ医の支援を行っている。ホーム内に看護師が3名いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの方針を説明し、納得したうえで入居してもらっている。ホーム内で最期を迎えたいとの意志のある利用者もあり、ホームとして本人の希望をかなえるためにも、職員全員で話し合い、全員で方針を共有した指針の作成にとりかかっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーへの配慮からさりげなく声かけするなどし、ミーティング時にプライバシーについての話し合いを行うなど、徹底している。記録物は事務所に保管し、職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが意志確認を行い、体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間はそれぞれのペースで、朝食も個々に合わせた時間に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の力量に合わせて買い物、食事の準備・後片付けなどを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。また、会話を楽しみながら職員と一緒に食事をし、楽しい食事になるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3～4回であるが、利用者が希望すれば毎日入ることができ、利用者の意向を考慮している。また、足浴、シャワー、清拭は臨機応変に対応している。ときには、近所の温泉に職員と一緒に出かけたりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かして買い物や魚のさばき、園芸、行事でのあいさつをしてもらうなどの場面作りをしている。また、利用者の力を助案し、一泊旅行と一日遠足に分けて出かけるなど、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。利用者も楽しみにしており、次の行き先を考えたり、歩けるようにリハビリを一生懸命するようになるなど利用者の励みにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ(霧島ヶ丘公園、バラ園など)犬の散歩と日常的な外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、外出傾向のある利用者を把握している。子どもたちの立ち寄り場としても開放しているので昼間は施錠していない。夜間は設計上少しの音もリビングで感知できる建物の構造になっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼夜間想定で消防署立ち会いの定期的な避難訓練を行っている。災害時の緊急連絡網に地域の方々も入っており、協力体制ができている。災害時の備蓄もある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や習慣に応じた支援をしている。栄養摂取や水分摂取は個々に記録し、職員全員が把握できるようにしている。また、1年に1回は栄養士にカロリーチェック、栄養バランスのアドバイスをうけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、テレビを見るコーナー、ラジオを聴くコーナーと分かれており利用者に配慮している。24時間換気システムと朝は必ず窓を開けて空気の入れ換えを行っている。また、ホール、廊下に温度計を設置し、室温を調整している。玄関で茶香炉をたいたりし、快適に過ごせる共用空間である。現在、畳コーナーを設け昼寝などができるように計画中である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広めのフローリングで、ベッドも自分の使い慣れたものを使用している利用者もいる。家族の写真や小物など持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		